

町村役場の分野横断的な強みを発揮し、明日の日本社会を牽引

福島大学食農学類長・東京大学名誉教授

生源寺 眞一

このたびは全国町村会創立100周年記念の感謝状を頂戴し、まことに恐縮の極みであります。また、これからの町や村の活動にどれほど貢献ができるだろうかと考えながら、身の引き締まる思いでもあります。

振り返ってみますと、20代の前半から古希を迎えた今日まで、全国の町村の皆様から実に多くのことを学ばせていただきました。北は北海道から南は九州・沖縄まで、専門領域で申しますと、現場の農業・農村に接し続けたことは私自身の誇りでもあります。なかでも農村の共同行動、典型的には農業用水や農道などを支えているコミュニティの底力は地域社会の基盤であり、したがって日本社会の国際的にも類まれな強さであると確信しております。

町村の皆様から多くを学んだわけですが、お返しに何ができたかと問われると、答えに窮してしまいますが、6年ほど前から地域農政未来塾の塾長を仰せつかっております。未来塾について改めて紹介は申し上げませんが、若手・中堅の塾生との交流を通じて、私自身、町村の役場の強みを再認識していることをお伝えしたいと思います。それは役場が分野横断的な取組に適したシステムのもとにある点です。同じ建物の中にさまざまな部署が隣接するかたちで配置されています。また、塾生の中にもおられますが、職員が異なる部署を経験することもごく普通のできごとであります。これらはいわゆる縦割りの弊害が指摘される中央の府省にはない強みだと思うのです。皆様もご承知のように、そもそも町村の現場が直面する課題には、分野横断的な取組の求められるケースが多いことも間違いありません。

最後になりますが、100周年を迎えた全国町村会、そして926の町と村の皆様から心から応援のメッセージを贈りたいと思います。地域のコミュニティの共同行動の伝統をベースに、また、町村の役場の分野横断的な強みをしっかりと発揮しながら、明日の日本社会を牽引していただきたいと願う次第です。ともに頑張りましょう。創立100周年、誠におめでとうございます。